

1. 準備

（製品名・機種型番等は、現時点でバイオバンクが採用しているものを提示している）

- Maxwell® RSC Instrument（Promega）
- Maxwell® RSC Buffy Coat DNA Kit（Promega）
- NanoDropOne（Thermo Fisher Scientific）
- 48 Jacket Tubes 2.0 mL External-Type（FCR & Bio）
- 100穴フリーザーラック(2D用)（FCR & Bio）

2. DNA抽出

（Maxwell®のプロトコルに則って調製）

DNAは、超低温（-80℃）フリーザーもしくは液体窒素気相保管のバフィーコート（白血球層）より調製。

2-1. デッキトレイにカートリッジをセット。

2-2. カートリッジのwell #1にバフィーコート分画50-250 µLを注入。

2-3. Elution TubeにElution Bufferを180-200 µL添加し、Maxwell® RSC Instrumentにセット。

2-4. スタートボタンを押して装置を稼働させ、DNAを抽出。

2-5. 抽出済みのElution Tubeを取り出し、磁性体が混入しないよう検体番号ラベルを貼ったチューブに回収。

（参照） http://www.promega.co.jp/product/automat/rsc_instrument.html

3. 品質検査（QC）

3-1. ブランクは、Elution Bufferを使用。

3-2. 1 µLの検体を分取し、NanoDropOneにより吸光度を測定。

3-3. 品質管理基準：DNA濃度30ng/µL以上、吸光度比A260/A280 1.7以上。

4. 保管

4-1. チューブは100穴フリーザーラック(2D用)に並べ、超低温（-80℃）フリーザーで保管。

4-2. 検体管理システムに検体情報を入力。

➤ 作業環境温度：室温（12℃～28℃）で実施



Maxwell® RSC
Instrument
(Promega)



Maxwell® RSC
Buffy Coat DNA Kit
(Promega)

詳細手順につきましては、下記までお問い合わせください。
バイオバンク代表：biobank@ncgg.go.jp